

令和2年9月吉日

関西若手議員の会
会 員 各 位

関西若手議員の会
会長 戸嶋 幸司
(東近江市議会)

関西若手議員の会 研修会のご案内

拝啓 初秋の候、議員各位にはますますご健勝にてご活躍のことと存じます。

さて、地方議会議員として多様化する社会的ニーズに幅広く対応するため、この度、関西若手議員の会・公式研修会を下記の通り開催させて頂きます。大変お忙しいとは存じますが、是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

期日：2020年10月15日(木)

会場：ウェルネスパーク五色（兵庫県洲本市）

日程：13:00～15:00 研修①

内容「菜の花ひまわりエコプロジェクトについて」 洲本市企画課 高橋壱氏

15:30～17:30 研修②

内容「オンライン活用が難しいまちづくり領域での活用事例と現在地～自治会・町内会支援、地域福祉の現場から～」 まちしごと総合研究所 三木 俊和氏 他

以上

【問い合わせ先】

関西若手議員の会 事務局長 小松 遼太（福知山市議会）

携 帯：090-6057-2885 e-mail:komatsu0325@gmail.com

兵庫県洲本市 研修報告書

椿原 竜二

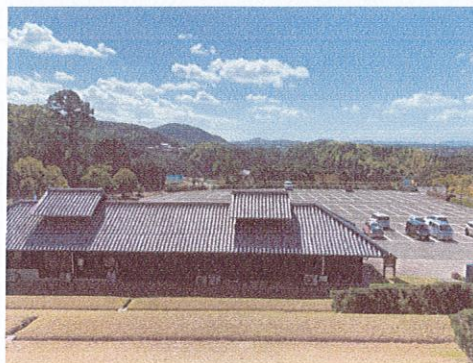
1. 研修日程

2020年10月15日(木)

2. 場所

ウェルネスパーク五色

3. 研修内容

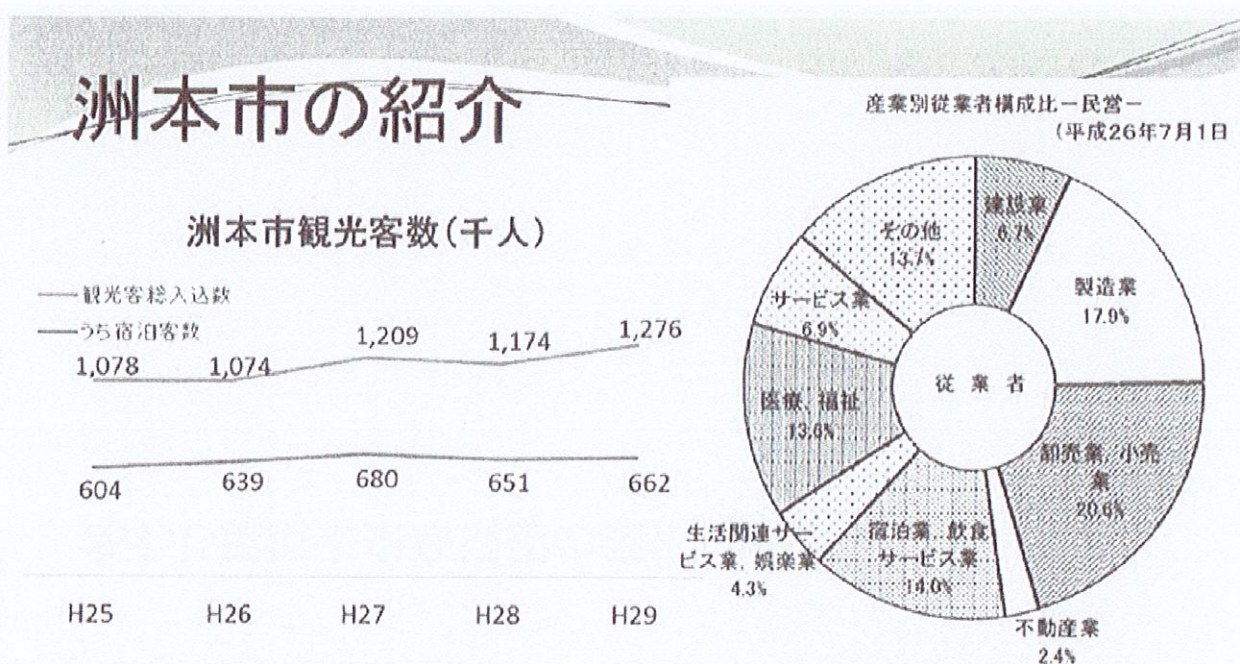


① 再生可能エネルギーを地域資源と考える

～エネルギーパーク洲本あわじ環境未来島構想の事例より～

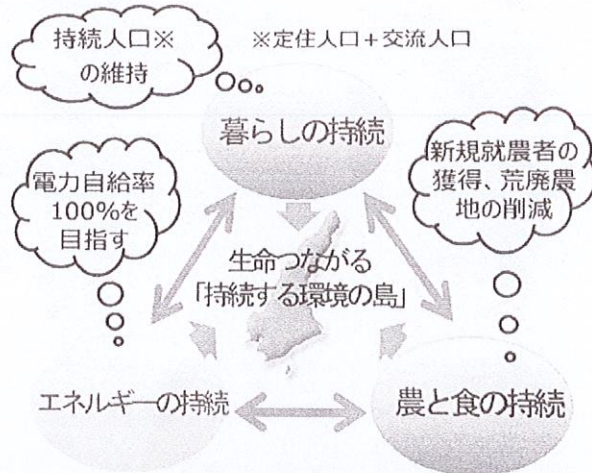
<洲本市の概要>

- ・面積：182.38 km²
→57%が山林（林業はほとんどない）
- ・瀬戸内海気候
- ・人口：約4万4千人
- ・高齢化率：35.1%



『あわじ環境未来島構想の策定・推進』

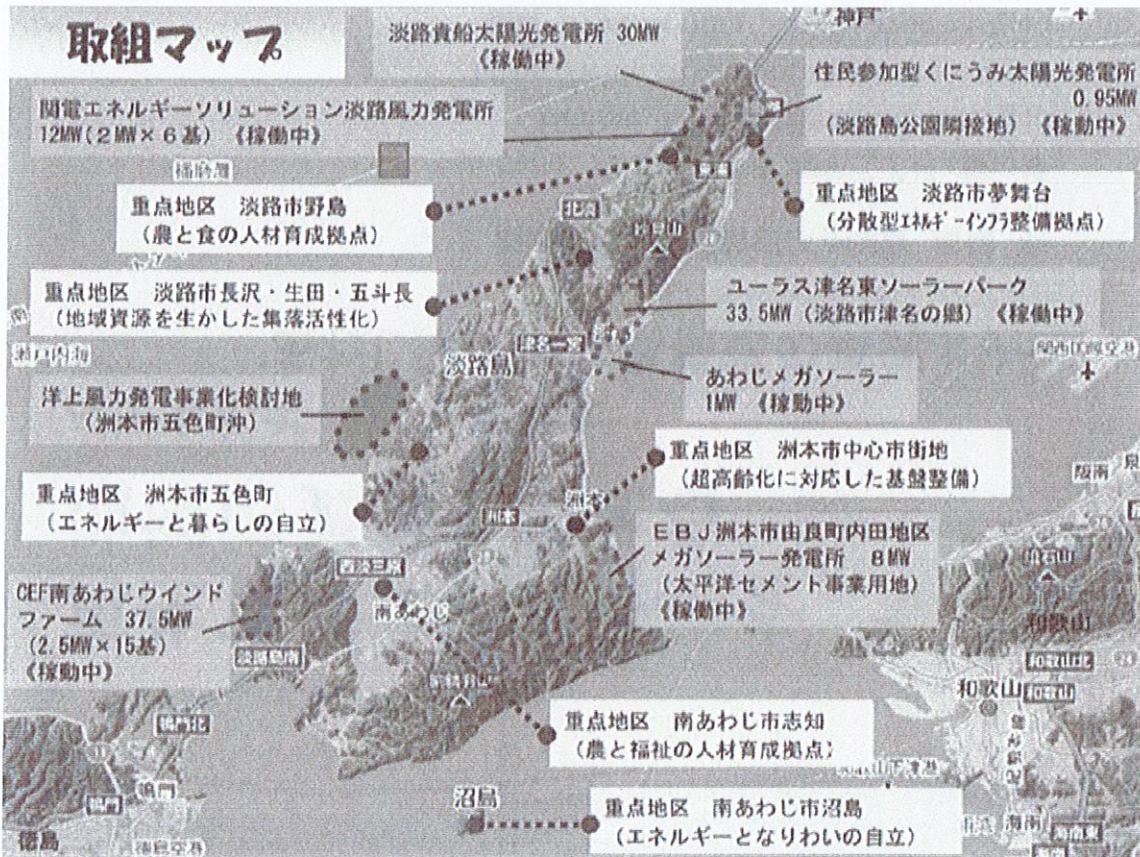
人口減少や経済縮小などの厳しい現状と、都市部への良好なアクセスや高い食料自給率などの高いポテンシャルを併せ持つ淡路島で、地方が主役の持続成長モデルを産民官連携により構築することを目指そうと、平成22年に兵庫県と淡路島三市により構想を策定。構想の実現に向けて、大小様々な事業が島内各地で展開中。



平成23年12月に
地域活性化総合特区に指定
(構想のうち熟度の高い事業)

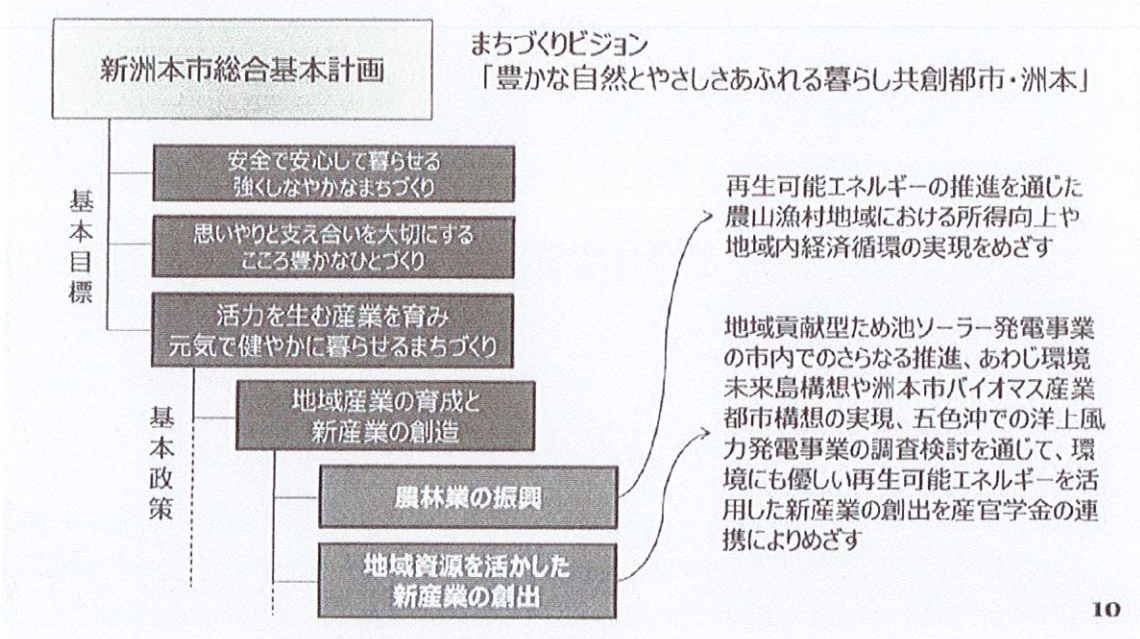


規制や制度の特例
+
税制・財政・金融面での
国からの支援が得られる

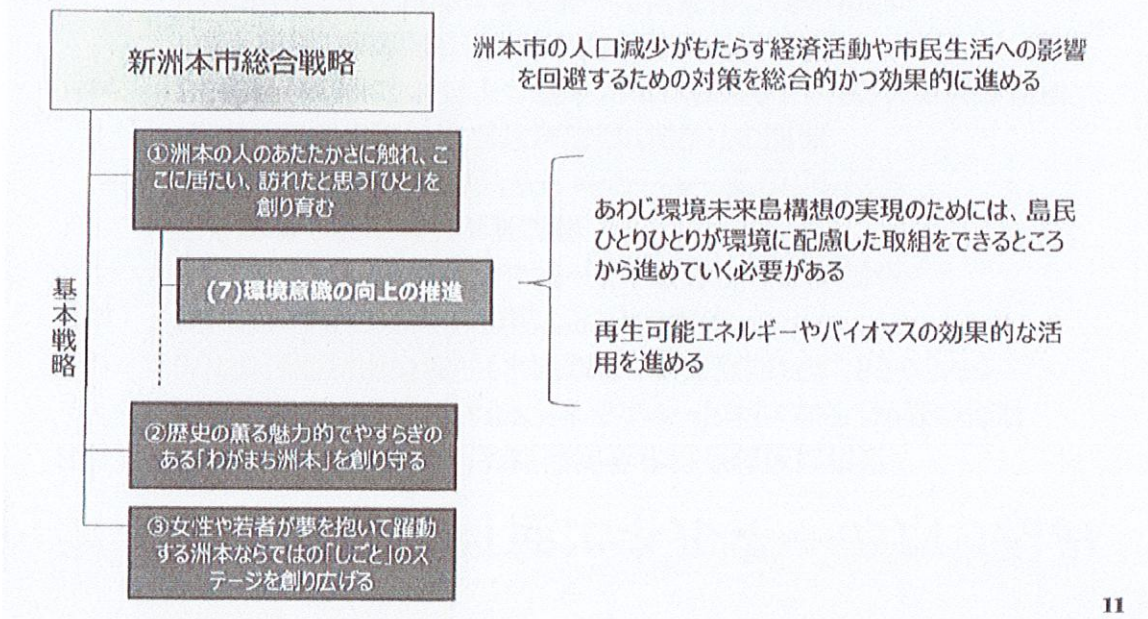


『洲本市における再生可能エネルギー推進のビジョン』

●推進の位置づけ・目的①



●推進の位置づけ・目的②



●再生可能エネルギーの取り組み

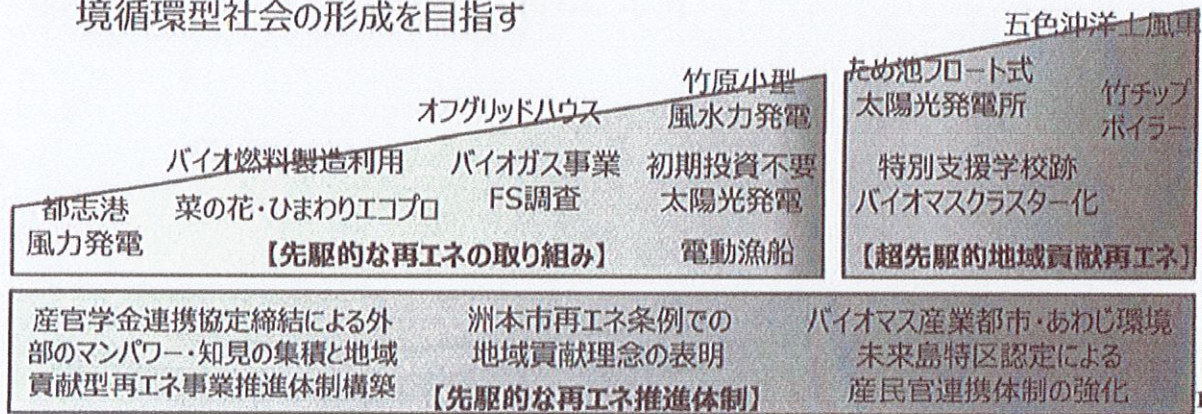
- H13 五色町地域新エネルギービジョン策定
- H14 葉の花・ひまわりエコプロジェクトの推進
クリーンエネルギー五色風力発電施設建設(1,500kW*1基)
- H15 バイオディーゼル燃料(BDF)製造利用開始
- H16 公共施設屋根等を利用した太陽光発電施設の整備
住宅用太陽光発電施設導入補助制度開始
- H18 洲本市と五色町が合併し「洲本市」に
洲本市バイオマスタウン構想策定
洲本市地域新エネルギービジョン策定
- H19 洲本市地域新エネルギー詳細ビジョン策定
- H21 洲本市地域新エネルギービジョン事業化可能性調査
「エネルギーパーク洲本」が次世代エネルギーパークに指定
- H22 高速メタン発酵処理によるエネルギー化、事業化可能性調査
- H23 公用電気自動車の購入、電気自動車充電施設の整備
初期投資不要の太陽光発電施設の整備
五色沖での洋上風力発電施設設置の検討
- H23 あわじ環境未来島構想が地域活性化総合特区に指定
洲本市五色町を想定エリアとするスマートコミュニティ構築の検討
BDFの民間利用の拡大(本四高速、地域巡回バス、トラクター)
- H24 新技術によるBDF製造実証プラントの整備
ドライ系バイオマスのエネルギー化、事業化可能性調査
完全電動漁船の航行実証試験
由良町内田での大規模メガワットソーラー発電所の建設
“あわじ環境未来島推進官民協働の集い”の開催
- H25 B5燃料(軽油に5%以下の割合でBDFを混合した燃料)の製造利用
「域学連携」地域活力創出モデル実証事業の実施
洲本市地域再生可能エネルギー活用推進条例の制定
洲本市バイオマス産業都市構想の策定
- H26 洋上風力発電設置に係る基礎情報整備の対象地に選定(環境省)
龍谷大学公開講座、再生可能エネルギー塾の開催
洲本市がバイオマス産業都市に認定(近畿初)
- H27 バイオ燃料製造利用等を行う廃食用油リサイクルの浜田化学(尼崎市)の事業所を市内に誘致
- H28 風力・地熱発電に係る地域主導型の戦略的適地抽出手法の構築事業のモデル地域に選定(環境省)
竹チップを主燃料とするバイオマスボイラーの整備
“地域貢献型再生可能エネルギー事業の推進に関する協定”を締結
産官学金連携体制の構築により、以下①②の設置に繋がる
塔下新池ため池ソーラー発電所の設置・・・①
- H29 龍谷フロートソーラーパーク洲本の設置・・・②
上記①②設置の取組が評価され、第5回プラチナ大賞優秀賞、平成29年度新エネ大賞審査員特別賞を受賞
- H30 市内2地区で、放置竹林の燃料化による適正管理モデルを構築
- R2 ①②の売電利益を洲本市の活性化のために活用するための基金管理団体「(一社)洲本未来づくり基金」設立

洲本市における再生可能エネルギー これまでの蓄積・これからの展開

これまでの様々な取り組みや体制をベースにしながら、農山漁村に豊富に存在する資源を活用した地域貢献型再生可能エネルギー活用事業に取り組むとともに、エネルギーパーク洲本としてその先駆性を情報発信することで、新産業の創出と環境循環型社会の形成を目指す



洲本市総合基本計画と
洲本市総合戦略の推進に



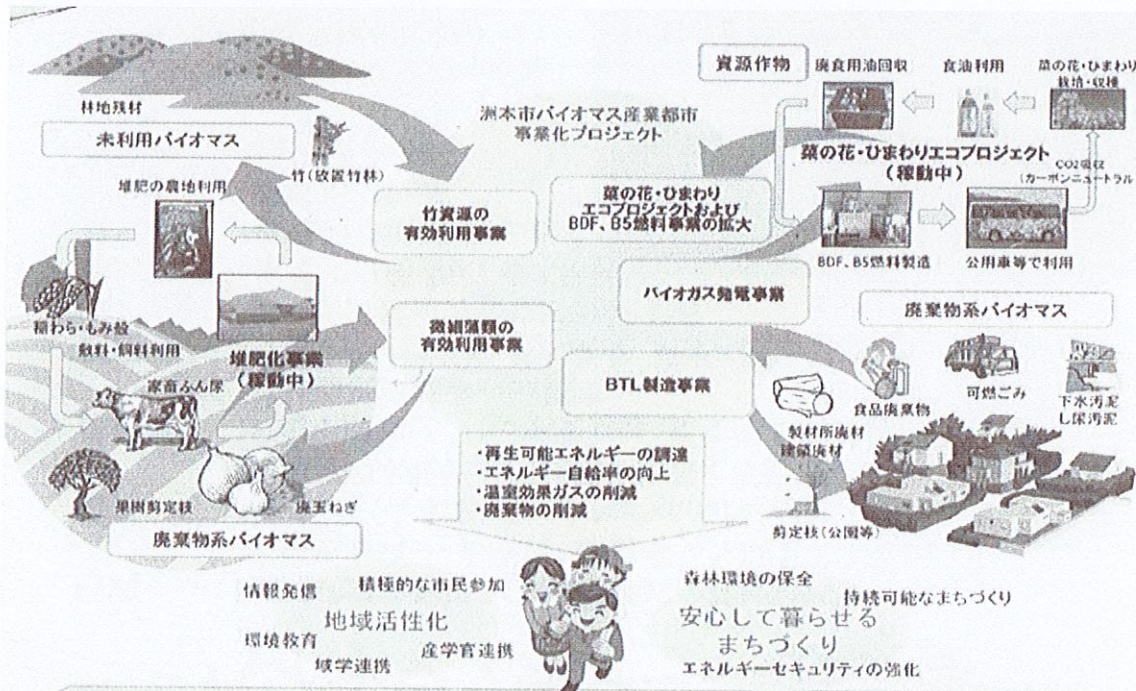
『洲本市におけるバイオマス利活用に関する取り組み』

●洲本市バイオマス産業都市構想の策定

- バイオマス利活用に関するこれまでの市の取組を体系立てて整理し、事業化までのロードマップを定めるために、平成26年4月「洲本市バイオマス産業都市構想」を策定。
- バイオマス利用の現状と課題、目指すべき将来像と目標、事業化プロジェクト、地域波及効果、事業実施体制等を取りまとめ、「バイオマスでつながる環境未来の里・すもと」をキャッチフレーズに、バイオマス産業の創出・育成による地域産業の振興ならびに雇用創出、及びバイオマスをはじめとした地域自立分散型エネルギー供給体制の強化による環境にやさしく災害に強いまちづくりを目指すことを目標に掲げた。

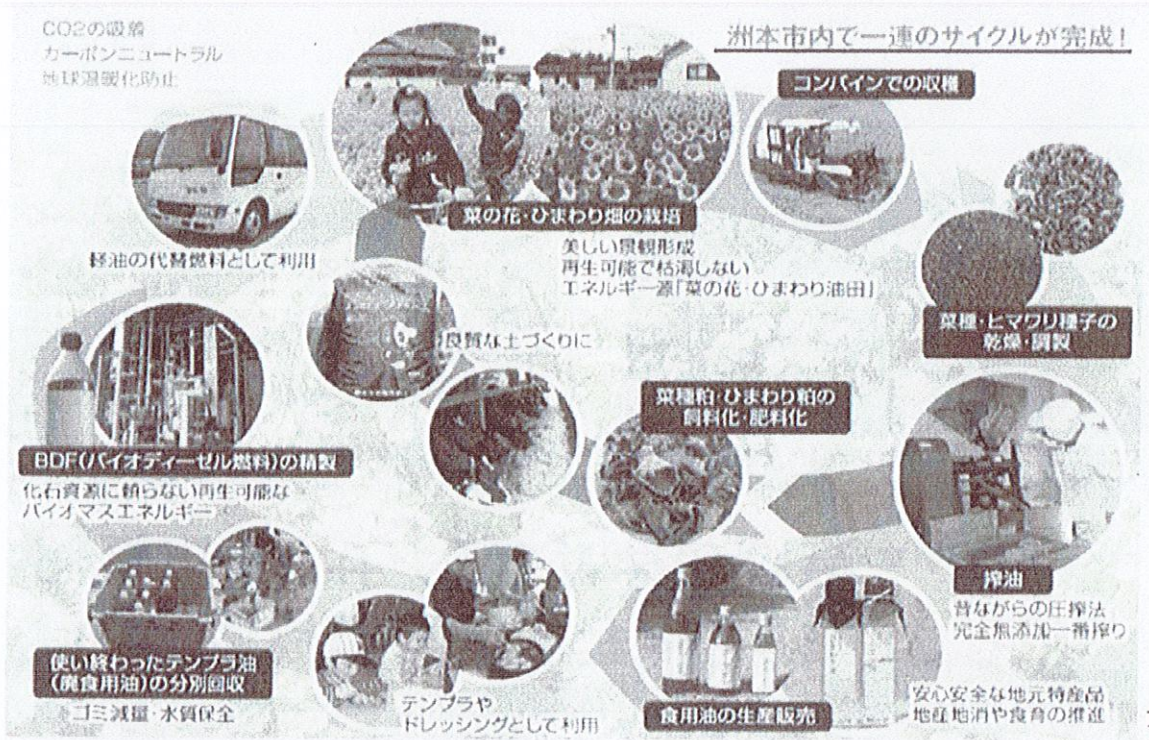
H26.11.10、近畿で初めて「バイオマス産業都市」に認定 ➡ 関係7府省の支援を得て構想の実現を図っていく

●洲本市バイオマス産業都市構想の全体像



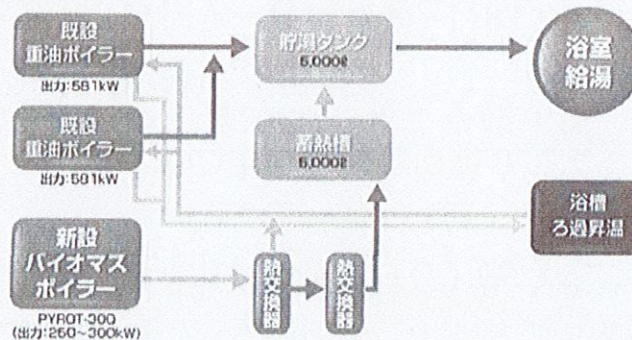
“バイオマスでつながる環境未来の里・すもと”の実現

●菜の花・ひまわりエコプロジェクトによるバイオ燃料製造利用

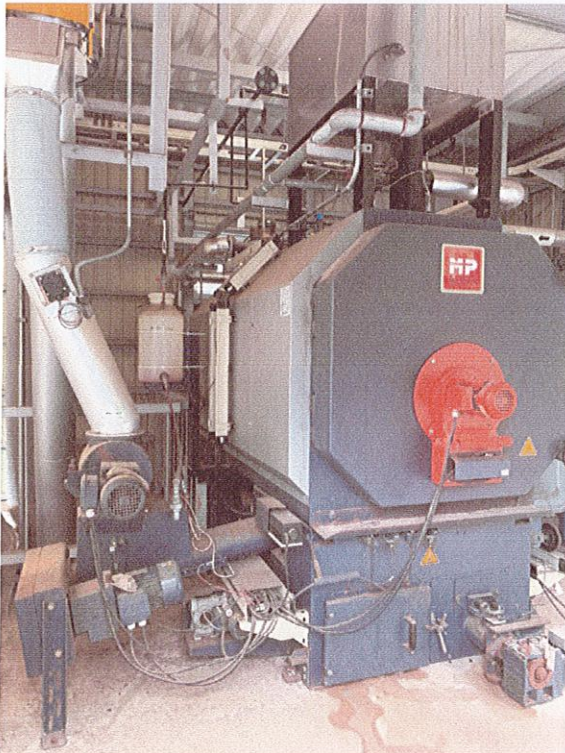


●竹チップを主燃料とするバイオマスボイラーの整備

- グリーンニューディール基金等を活用し、竹チップを主燃料とするバイオマスボイラーを、ウェルネスパーク五色の温浴施設「ゆ〜ゆ〜ファイブ」に設置(平成29年3月)。
- 竹チップ製造のために放置竹林の間伐等適正管理を行うことで、有害鳥獣による農業被害の軽減、美しい里山の保全、雇用の創出を図る。
- バイオマス燃料の地産地消によるエネルギー自立と、既存ボイラーの重油消費量半減によるCO₂排出削減に寄与する。



23



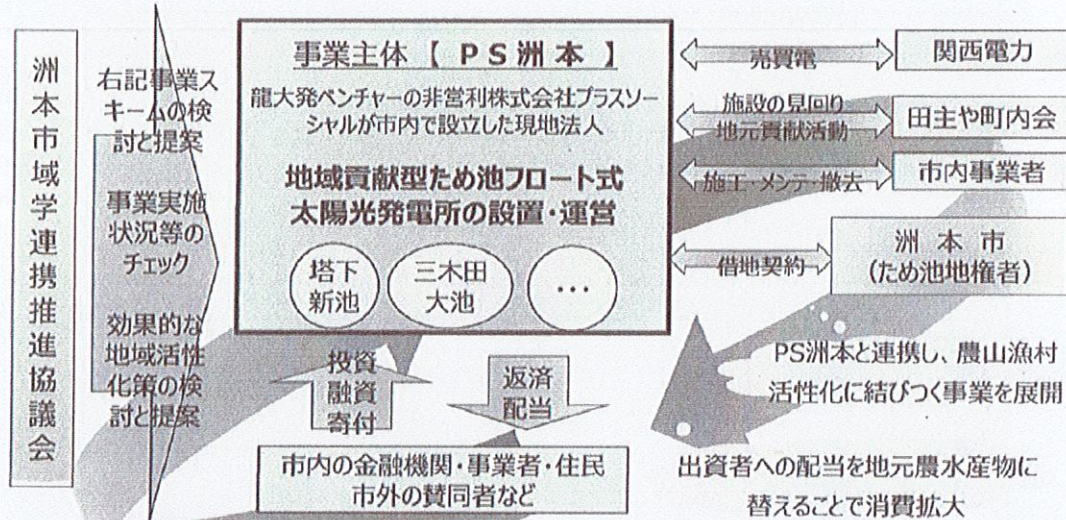
【バイオマスボイラーの概要】

ボイラー種別：無圧式温水器（ボイラー技士免許不要）
 型 式：PYROT-300
 定格出力：250~300kW
 熱 効 率：90%
 チップサイズ：50 mm × 50 mm × 5 mm
 燃 料：竹チップまたは木チップ（切削チップ）
 定格時燃料使用量：71.5 kg/h(竹チップ)
 燃 焼 方 式：2段階燃焼
 着 火 方 式：電熱式点火プロワ
 安全機構：感震器、機械式温調弁による消火装置
 灰出し方法：スクリー式自動灰出し装置
 サイロ容量：11m³
 災 害 時：避難者の洗身受け入れが可能
 メーカー：株式会社ヒラカワ
 建 屋：鉄骨造平屋建て 55.46 m²

事業費：54,977,400円

※災害時(停電時)は、避難者の先身の受入可能

再エネ条例の基本理念の実現に向けた “地域貢献型再エネ施設”のイメージ



身近な資源である再生可能エネルギーは 地域活性化のためのツールのひとつ



●所感

- ・地域再生可能エネルギー→龍谷大学と連携している。
- ・利益は全て洲本市の活性化に使用する。
- ・お金は地元の銀行から借りている。
- ・洲本市のメガソーラーは東京の会社で、利益は全てその会社に。。。
(地域貢献型のものではない)

※地域が良くなったと感じるような取り組みをしないといけない。

施設や機械の更新の費用対効果は？

- ・作る時は補助金があるが、撤去や更新に補助金はない。
- ・状況がどんどん変わってくるので、更新時は厳しくなると感じる。
- ・作る時はほとんどが補助金で作られているのが事実。
- ・費用対効果は現時点でどうするのか検討する必要はある。
- ・金銭面を考えると得はしない。
- ・費用対効果 < 再生可能エネルギーの活用による防災対策や環境対策？
- ・視察される施設としては良いかもしれないが実用性や費用対効果を考えると疑問あり。
- ・ただのモデル地区になりつつある。
- ・特に計画性はない。(いつまでにこうしよう) といったものはない。
- ・民間会社を巻き込んでやるべきで、行政だけでやるのは良くない。
- ・住民のキーマンがいて、リーダーシップを発揮していた (言い出しっぺ)